

常陸宮賜杯第72回中部日本スキー大会 新型コロナウイルス感染症ガイドライン

本ガイドラインは（公財）日本スポーツ協会スポーツイベント開催ガイドライン、スポーツ庁社会体育施設ガイドラインおよび各種スポーツ大会のガイドラインを参考し、作成したものである。今後の状況に応じて隨時、見直しを行うものとする。

1. 大会の開催判断について

① 大会開催要件

中部日本スキー大会は、昭和26年から、中部7県（静岡、愛知、三重、岐阜、福井、富山、石川）の強い連帯と友愛の絆により、中部日本最大のスノースポーツの祭典として開催してきている大会であることから、感染症予防対策のため、いずれか1県でも参加が不可能となった場合には開催を中止とする。

② 判断基準

国および県、全日本スキー連盟が発表する新型コロナウイルスに関するガイドラインに基づき開催を判断する。なお、中部7県のいずれかの県において次の事項に該当する場合は、開催を中止とする。

- (1) 国または各県及び県内の各市町村や地域において緊急事態宣言・
まん延防止等重点措置が発令・適用された場合
- (2) 国または各県においてイベント開催の自粛の要請があった場合
- (3) 国または各県において県外への移動制限がある場合

③ 開催判断基準日

開催の判断は11月末とし、検討会を開催し決定する。

以降、上記判断基準に該当した場合にはその時点で中止とする。

また、1月上旬と大会1週間前には検討会選出の委員において感染状況等を再確認し、開催判断をする。

2. 大会開催における感染症対策

① 基本事項

- ・3密にならない工夫をすること。
 - 密閉空間（換気の悪い密閉空間）
 - 密集場所（多くの人が密集している）
 - 密接場面（近い距離での会話や発声）

- ・マスク着用の徹底（運動時を含まない。）
- ・手洗い、うがい、手指消毒の徹底。
- ・施設の入口、受付などには手指消毒液を設置すること。
- ・選手、監督、コーチ、競技役員、観戦者などすべての大会関係者について、2週間前から大会当日まで以下の確認事項に該当する場合は大会の参加を見合わせること。また、体調チェックシートを2週間前（1月15日（土））から記入し主催者指定の場所に提出すること。
チェックシートの提出の有無を判断するためにシールやバンドで区別する。

確認事項：以下の事項の有無（該当する場合は参加を控えること。）

- (1) 37.5℃を超える発熱
- (2) 咳、のどの痛みなどの風邪の症状
- (3) だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
- (4) 嗅覚や味覚の異常
- (5) 体が重く感じる、疲れやすい
- (6) 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- (7) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- (8) 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がある。
- ・主催者の指示を遵守できないものは、他の参加者の安全を確保する観点から、大会の参加を認めない。

② 会議・式典関係

- ・入口に検温機および消毒液を設置すること。
- ・換気扇を回す、扉を開けるなど換気のいい空間にする。
- ・各県の選手団の人数を制限すること。
- ・入場者（選手、来賓、係員等）は必ずマスクを着用し、大声での会話を控えること。
- ・開会式でのあいさつなどマスクを外して話す場合は、フェイスシールドもしくはマウスシールドの着用または演台にアクリル板を設置すること。
- ・使用するマイクはこまめに消毒を行うこと。
- ・表彰式および閉会式は主催者が代表し写真撮影を行うなど、時間短縮に心掛ける。
(撮影した写真はホームページに掲載し周知を図ること。)

③ 競技運営関係

（競技役員）

- ・各係員は必ずマスクを着用する。
- ・スタート係、フィニッシュ係、受付係など選手と接触する可能性がある係員はビニール手袋を着用する。（必要であればフェイスシールドを着用）
- ・招集係など大きな声を出す係員は、拡声器を使う。

(Web 媒体の活用)

- ・公式掲示板および速報掲示板に人が集まる可能性があることから、掲示板の分散およびホームページ等の Web 媒体を活用すること。
- ・受付時のやり取りを削減するため、可能な限りインターネット、メールなどの電子データでやり取りを行うこと。

(競技本部、放送室、計時計算室)

- ・各部屋において、入室する人数を制限すること。
- ・受付など人が対面する場所にはアクリル板または透明ビニールカーテンを設置すること。
- ・複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、マイク、テーブル、イス等）について、こまめに消毒をする。

(救護)

- ・周辺の病院および消防署等に大会開催を事前に説明し、医療および救急体制を確認しておくこと。
- ・救護に従事する役員はマスク、フェイスシールド、ビニール手袋を必ず着用すること。
- ・新型コロナウイルス感染の疑いのある選手がいる場合は、保健所等の関係機関の指示に従い対応すること。
- ・着用したマスク、ビニール手袋はビニール袋などで密閉し処分すること。また、手袋を外した後は石鹼での手洗いおよび手指消毒を行うこと。

(トイレ、洗面所)

- ・手洗い場に石鹼を用意する。
- ・「手洗いは石鹼を使って30秒以上」の張紙を貼る。
- ・手洗い後に手をふくためのペーパータオル（使い捨て）を用意する。または、参加者にマイタオル持参を求める。
- ・複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、水洗トイレのレバー等）について、こまめに消毒をする。

(更衣室、休憩スペース)

- ・密な状態にならないよう人数制限を設ける。
- ・複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）について、こまめに消毒をする。
- ・換気扇を常に回す、窓を開けるなど換気に配慮する。

(ごみの管理)

- ・ごみの廃棄については唾液や鼻水等が付いたごみがある場合もあるので、すべてビニール袋で密閉し処理すること。
- ・回収する人は必ずマスクおよび手袋を着用し、手袋を外した後は石鹼での手洗いおよび手指

消毒を行うこと。

④ 参加者関係

(大会前)

- ・参加者全員【選手、監督、コーチ、視察団等も含む】の情報（所属先、氏名、年齢、連絡先等）を各県の代表者の責任で取りまとめ主催者へ提出すること。【大会参加申込書に記入欄を追加】（※個人情報の管理は十分に注意すること。）
- ・厚生労働省から提供されている新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）を積極的に活用すること。

(大会期間中)

- ・大会会場へ出発前に体調チェックを行い、異常がある場合は参加を控えること。
- ・競技会場では常にマスクまたはネックウォーマーなど口元を覆うものを必ず着用すること。
- ・選手は、ウォーミングアップや競技中など活動に支障があると判断できる場合を除き、マスクまたはネックウォーマーなど口元を覆うものを必ず着用すること。
- ・選手控室テントは各県専用とし、他県の関係者は入室しないこと。
- ・宿泊時は、感染リスクを減らすため、不要不急の外出を避けること。

(大会終了後)

- ・大会終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症の陽性が確認された場合は、速やかに濃厚接触者の有無等を主催者に報告すること。

⑤ 観戦者関係

- ・観客の有無は、施設の広さや設備、予想される観客数等を総合的に考慮し別途定める。
- ・観客を動員する場合には、観客同士が密にならないように観客エリアを指定する。
- ・主催者が指定する観客エリアに入場する方は、選手と同様に 2 週間前から体調チェックシートの提出を求める。
- ・必ずマスクを着用し、大声での応援はせず、なるべく会話は控えること。

⑥ 宿泊関係

- ・各宿泊施設は全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会の宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドラインを参考に対応すること。
- ・ワックスルームは 3 密空間になることが予想されることから、マスクの着用や人数制限、定期的な換気など各県において対策を徹底すること。